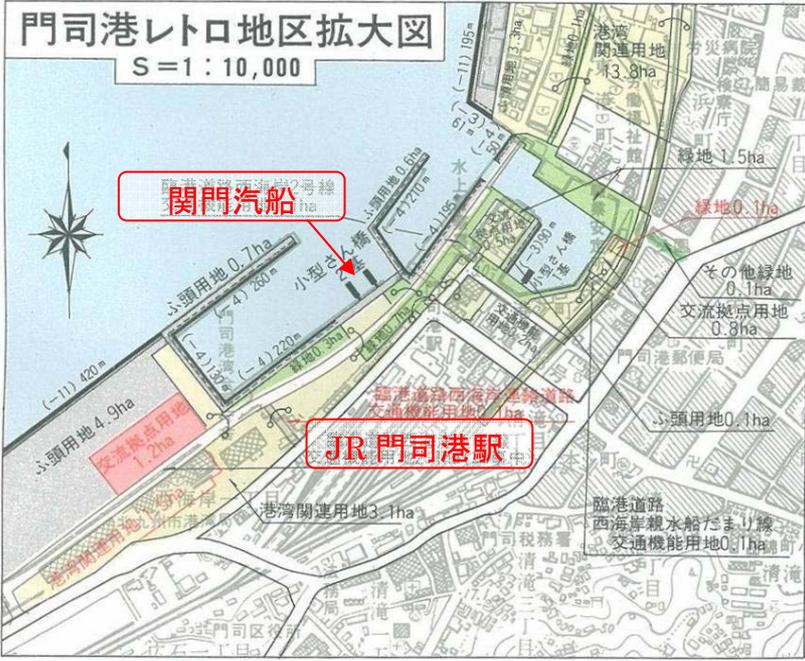


観光社会資本の事例

テーマ	海峡と文化遺産の調和したみなとまち
【施設の状況写真】	
	
関門海峡に面した北九州港門司港レトロ地区。周辺には歴史的価値のある施設が数多く残っている。	
【施設の利用写真】	
	
親水広場周辺は、市民及び観光客の憩いの場となっている。	イベント開催時は数多くの観光客で賑わう。(写真:関門海峡花火大会)
【観光資源としての利用状況】	
門司港レトロ地区の活性化策「門司港レトロ事業」の一環として整備された緑地では、明治45年に建造された赤煉瓦造りの旧門司税関庁舎の修築や遊歩道・親水緑地の整備を実施。都市サイドの道路・駅前広場等の整備やホテル・商業施設等の進出に加え、海峡ドラマシップ、九州鉄道記念館の開館、宮本武蔵ブームでの観光などにより、門司港レトロ地区は年間約250万人もの観光客が訪れるまでになった。	

テーマ	海峡と文化遺産の調和したみなとまち
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>○名称 門司港レトロ地区緑地</p> <p>○所在地 福岡県北九州市門司区港町</p> <p>○事業名 北九州港港湾環境整備事業(緑地等施設)</p> <p>○事業主体 北九州市</p> <p>○事業期間 昭和59年度～平成15年度</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>○港湾の特徴を活かした親水性の高い良好な空間の形成</p> <p>門司港レトロ地区は、港湾文化の貴重な財産である赤煉瓦建物(旧門司税関)の保存活用や親水護岸、遊歩道等の整備により、海や港の景観が楽しめる親水性の高い空間となっており、市民の利用のみならず、訪れる観光客も増加している。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】 観光協会・イベント関係 http://www.retro-mojiko.jp/</p>	